岩手大学教育学部附属教育工学センター教育工学研究　第5号（1983）

「放送教育月例研究会」報告

石川　桂司*

I　はじめに

岩手大学教育学部の教官数名と現場教師並びに学校放送番組製作関係者の約30名は，昭和54年4月から今日まで，原則として月1回（長期休暇等を除く）土曜日の午後に，岩手大学教育学部附属教育工学センターを会場として，放送教育についての月例研究会を開いている。

毎回レポーターをきめて，教室実践をもとにした報告や教材の研究，さらにそのときどきの放送教育に関する問題を取りあげて報告し，討論をすすめてきた。

毎回の参加者は10数名で必ずしも多くはないけれども，それぞれ忙しい時間をやりくりしながら参加し，今日まで休むことなく続けている。

現在登録されているメンバーは，幼稚園関係3名，小学校関係16名，中学校関係6名，障害児学校関係3名，大学関係5名それにNHK関係者3名である。

この報告は，研究会のこれまでの歩みについてまとめたものである。

II　放送教育研究の必要性

ナトコ映画の利用によってスタートした戦後の視聴覚教育は，昭和20年代から30年代前半にかけて，学校教育でも社会教育でも16ミリ映画の利用がその主流を占めた。

ところが昭和28年に放送を開始したテレビが，昭和30年代から40年代にかけて学校現場に普及した。またNHK学校放送番組も，世界で最もすぐれたテレビ教材と評価されるまでに発展した。今日では，テレビ受信機を保有しない小・中学校は皆無と言っていいほどになっている。小学校では全教室にカラーテレビを設備しているところも多い。

昭和54年度NHK総合放送文化研究所の調査によると，小・中・高校における各種視聴覚教材の利用状況は，次表のとおりである〔1〕。

この表からもわかるように，テレビ教材は同じ視聴覚教材の中でも抜群に高い利用率を示し，毎

第1表

	小学校		中学校		高等学校（全日制）	
	毎週利用	時々利用	毎週利用	時々利用	毎週利用	時々利用
テレビ	81.1％	17.3％	20.2％	41.8％	20.5％	49.0％
16ミリ映画	2.7％	52.7％	1.9％	53.3％	7.5％	74.7％
スライド	5.1％	71.0％	5.4％	71.8％	10.6％	77.1％

＊岩手大学教育学部教育学科

日の教育実践において日常的に位置づけられるようになったのである。

ところが「音声をともなう動く映像を提示する」という教材提示機能では映画と同じ性質をもつテレビは，反面教材提供方式では映画と際立ったちがいを示す。

すなわち，「きめられた日時に，きめられた内容が送られる」という制約をもちながらも，「速報性・広範性」という電波メディアとしての特性のほかに，「系統性の強い教材が，毎週継続して提供され，スイッチを入れるだけで手軽に使える」という点で映画にない長所をもっている。この「系統性・継続性・簡便性」という教材提供方式にかかわる特性が，子どもに対しての毎日毎日の絶えざるいとなみという教育活動で大きな力を発揮する。

ここに，日常的な教材としてテレビが高い利用率を占めている理由がある。

同時に，教材提示方式では他の視聴覚教材と共通性をもつテレビが，前述したような際立って異なる教材提供方式をもつが故に，放送教育の実践には他の視聴覚教材と異なった独自の問題領域がある。

ここに放送教育研究の必要性がある。

この月例研究会も，こうした必要からもたれた集りである。

Ⅲ　これまでの歩み

次に，これまで開かれた33回に及ぶ研究会の報告者とテーマを列挙してみると，次のとおりである。

1	佐々木　俊　光	（水沢南小）	理科教育と放送教育ー豊かな理科教育をめざしてー
2	石　川　桂　司	（岩手大学）	テレビ理科教室を利用した教育実践
3	玉　川　幾　麻	（沼宮内小）	新学習指導要領における放送教材の位置づけ
4	笹　原　裕　子	（岩大附幼）	幼稚園における放送教材利用
5	大　橋　和　子	（太田東小）	新米教師がはじめてテレビ教材を利用した経験
6	豊　岡　　進	（御明神小）	続新米教師がはじめてテレビ教材を利用した経験
7	佐々木　俊　光	（水沢南小）	感動ある理科教育を求めてーテレビを継続利用して（学校放送教育賞受賞論文）
8	野々村　　忠	（山　岸　小）	社会科におけるテレビ教材構造と子どもの感動
9	伊　藤　皖　司	（ＮＨＫ）	昭和55年度学校放送番組について
10	佐々木　千枝子 玉　川　幾　麻	（沼宮内小） （沼宮内小）	新番組「ひろがる教室」（ゆとりの時間向）をめぐって
11	大　橋　和　子	（太田東小）	テレビ利用による社会科学習指導の効果的実践
12	石　川　桂　司	（岩手大学）	テレビの教材性について
13	井　上　雅　夫	（岩手大学）	理科教材研究における一つの試み
14	酒　井　国　士	（ＮＨＫ）	「ひろがる教室」の制作について
15	阿　部　ゆき子	（太　田　幼）	視聴反応をとらえそれを生かす指導のあり方を考える－「できるかな」についてー
16	野々村　　忠	（山　岸　小）	放送教育研究大会東北大会に向けて（1）
17	笹　原　裕　子	（岩大附幼）	放送教育研究大会東北大会に向けて（2）
18	佐　藤　　基	（高　松　小）	放送教育研究大会東北大会に向けて（3）
19	中　村　幸　輔	（釜津田中）	小規模中学校における放送教育

20	高瀬智恵子	(門馬中)	中学校における放送教材の活用とその効果
21	石川桂司	(岩手大学)	放送教育の現状と東北大会
22	佐々木俊光	(水沢南小)	ＶＴＲ「私の授業」を視聴して
23	宇田川克之	(ＮＨＫ)	岩手県小中学校における放送教材施設の利用状況
24	全員討議		第23回放送教育研究大会東北大会の反省 ーこれからの放送教育ー
25	石川桂司	(岩手大学)	放送による学習ー放送によってのみ成立する学習ー
26	吉田茂彦	(ＮＨＫ)	昭和57年度学校放送番組について
27	佐藤昌	(ＮＨＫ)	ＶＴＲによる番組研究
28	佐藤基	(高松小)	小学校2年生社会科指導におけるテレビ利用
	野々村忠	(山岸小)	社会認識とテレビ利用
29	中村幸輔	(釜津田中)	苦しまぎれの音楽指導ーテレビを利用してー
	石川桂司	(岩手大学)	テレビ利用と音楽的能力
30	笹原裕子	(岩大附幼)	映像とイメージ（1） ー幼稚園テレビ番組人形劇の利用ー
	倉島敬治	(岩手大学)	
31	笹原裕子	(岩大附幼)	映像とイメージ（2） ー幼稚園テレビ番組人形劇の利用
	倉島敬治	(岩手大学)	
32	笹原裕子	(岩大附幼)	第24回放送教育研究大会東北大会に参加して
	陣ケ岡葉子	(高松小)	
	高瀬智恵子	(門馬中)	
33	大矢武雄	(高松小)	本校における放送教育の動向
	石川桂司	(岩手大学)	視聴覚教育と放送教育ー授業研究をとおしてー

この一覧表からもわかるとおり，報告者は幼稚園から小・中学校・大学，そしてＮＨＫの専門家と，高校教師を除く放送教育関係のすべての立場からでている。そして，論じられるテーマも巾広く多様である。

最近では，現場の具体的教育実践に関する発表とそれにかかわる理論研究の立場からの発表と，ペアを組んでの報告が行われている。

Ⅳ　研究会から生れたもの

このように実践に根ざした巾広く多様な研究報告が多いことから，これまでの研究会をとおして生れたいくつかの成果を挙げることができる。

その第１は，研究会メンバーの研究論文表彰の受賞である。

日本放送教育協会が毎年行なっている現場教師によるすぐれた応募論文の表彰で，この研究会での発表をもとに書いた会員の論文３編が受賞している。

- 昭和54年度学校放送教育賞ー日本放送教育協会長賞ー受賞論文
  佐々木俊光氏「感動ある理科教育を求めて――テレビ『理科教室』を継続利用しながら手さぐり12年間の実践――」〔2〕
- 昭和55年度学校放送教育賞ー佳作ー受賞論文
  大橋和子氏「テレビ利用による社会科学習指導の効果的実践」
- 昭和56年度学校放送教育賞ー日本放送教育協会長賞ー受賞論文

佐々木俊光氏「『理科教室』から自ら学ぶ子どもを育てる指導過程の追求」〔3〕

次にその第2は，ここ数年間の研究会の中で最も成功したと評価された第23回放送教育研究大会東北大会（盛岡市にて開催・昭和56年）において，本研究会のメンバーがその原動力になったということである。

すなわち，この月例研究会での報告者や参加者の多くが，東北大会の各校種別研究会で，それぞれ研究発表者として，助言者として，そしてまた講師として活躍した。そして，その発表なり助言なりは，この月例研究会で討論し研究を深めたものをベースとして展開された。

岩手大会の成功は，この月例研究会の力によるところが大きいと自負している。

放送教育についての研究会と言えば，最寄りのＮＨＫを会場にしていろいろお世話をいただいたり，あるいは放送教育研究会連盟事務局からの経費援助を得て開かれるものが多い。

こうした現状の中で本月例研究会は，いかなるスポンサーの力にもたよらず，手弁当で集り毎月500円の会費をお茶代・連絡費として出し合ってこの会を続けてきた。

そういう意味で，規模は大きくないが同志的なつながりをもった集りである。

最近，研究会メンバーが高齢化し，それぞれの職場で多忙な役割を担っている人々が多くなってきたため，参加者が少なくなってきた。

しかし，なんとか努力してこの悪条件を克服し今後もこの火を消さないように研究会を続けていきたいと考えている。

参考文献

1) 秋山隆志郎・今泉さち子「学校放送利用状況の推移と現況」文研月報　昭和55年4月号

2) 全国放送教育研究会連盟編「放送教育の探究」第16集，48－56，日本放送教育協会，昭55.

3) 全国放送教育研究会連盟編「放送教育の探究」第18集，92－101，日本放送教育協会，昭57.